

人々との触れ合い

I. 目的

私が今回の北上 FS に参加した理由は、実際に被災地へ足を運びたかったからです。東日本大震災から4年が経ち、一つの区切りと言われる5年が経とうとしています。最近ではテレビなどで被災地に関する報道も減り、忘れかけている人も多いと思います。ですが、まだ被災地は復興していません。被災地の状況を今一度確かめ、自分に出来ることはないのか確かめたいと思い現地に足を運びました。

II. 現地を訪れて

私は東日本大震災以降、初めて東北へ足を運びました。想像していたよりも復興が進んでいないと感じました。津波の被害が大きかった地域は未だに工事をしていたり、高台移転の話があるにも関わらず高台すら出来ていなかったり、堤防が全く出来ていなかったり、4年でこれだけしか進んでいないことに驚きました。

III. 印象に残ったこと

短い間でしたが、FS で一番印象に残っていることは人々の温かさです。FS へ行く前は、短期間で学生がボランティアに来て、被災地で生活している人たちはあまりよく思わないのではないか、と正直不安でした。今回の FS では漁業のお手伝いや送迎、語り部など様々な人達がボランティアを受け入れて下さり、老若男女問わず現地の人たちと関わることが出来ました。

漁業支援の際も、受け入れ先の漁師さんを含め家族全員がとても優しくかったです。私たちはボランティアとして手伝いに来ているにも関わらず、住んでいる地域の良い場所を案内してくれたり、暑い中体を気遣ってくれたり、まるで自分の実家に帰ってきたかのように温かく感じました。また、子供たちも何の隔たりもなく接してくれて、一緒に遊びました。その他にも、私たちが寝泊まりしている場所に子供たちが来てくれたり、差し入れをしてくれたり、ボランティアなのにこんなに贅沢なおもてなしを受けて良いのか、と思いました。

北上町の人たちは温かくもあり、みなさんとても明るい印象を持ちました。月日が経っているとはいえ、津波で親戚や近所の人が亡くなって辛い思いをされている方々がほとんどだと思います。ですが、震災のことや避難所での生活、今の生活のことをためらいもなく明るく話してくれました。お話の中で聞いたことですが、明るいのは北上の人だけだと言っていました。避難所で生活している時ですら、お互いに助け合ったり、冗談を言い合ったり、北上の避難所だけが明るかったと聞きました。もし私が逆の立場だとしたら、しばらくは誰とも話したくないし、ショックでとても元気に振る舞えないと思います。北上町の人たちの力強さを感じる事が出来ました。

子供たちも宿泊施設に遊びに来てくれて、「もっと遊びたい」「また明日も来るね」などと言ってくれて、本当に嬉しかったです。子供たちの無邪気さに救われることも多々ありました。

震災から月日が経つにつれ、日本国内はオリンピック招致に力を入れたり、自分たちと離れている場所で起きていることだと思ったり、年々関心が薄れていると思います。ですが、今回の FS で現地を訪れて復興は進んでいないし、まだまだ年月が必要だと感じました。そして人々と触れ合うことで場所の良さも人の良さも感じる事が出来ました。学生でも何かしら手伝えることがあると気付きました。また機会があれば北上町へ行き、関わった人たちに会いに行きたいです。